

第 1211 回放送分『小児疾患』3 回目

ゲスト：櫛木大祐ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「小児疾患」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 櫛木大祐（はぜき だいすけ）ドクターです。
櫛木さん、よろしくお願いいたします。

櫛木大祐Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は子どもの胸痛、胸の痛みについてお話しいただきました。
子どもの場合は重大な病気であることは稀で、
筋肉や肋骨の骨の周りの痛み、
あとは成長に伴う一時的な痛みなどが多いということでした。
今週は何についてお話しいただけますか？

櫛木大祐Dr.

今週は川崎病についてお伝えいたします。
川崎病にかかるのは、6 歳未満がほとんどです。
全身の血管で炎症が起こる病気で、6 つ診断基準があります。

二見いすず

6 つですね。早速教えてください。

櫛木大祐Dr.

1 つ目が発熱。2 つ目が目の充血。3 つ目が唇の充血。4 つ目が発疹。
5 つ目が手のひらや足の裏が真っ赤に変色。6 つ目が首のリンパが大きく腫れる、です。
血管が炎症を起こすのでこのような症状が出ます。

二見いすず

血管が炎症を起こすというのは、どのようなことが体の中で起きているのでしょうか？

櫛木大祐Dr.

血液中の成分の中に、細菌やウイルスなど体にとって害があるものを
攻撃してくれる免疫という働きをしているものがあります。
これが自分の血管を標的にして攻撃している状態というのが、血管の炎症です。
毛細血管はとても細いですが、目に見えないレベルの血管が攻撃を受けて
破れていくため、目が充血したり、手のひらや足の裏に赤みが出たりします。

二見いすず

そうなんですね。先ほど教えていただいた6つの診断基準は、
見た目にも分かりやすいものが多かったので、異常にも気がつきやすいですね。
この川崎病は、どのような治療を行うのですか？

櫛木大祐Dr.

治療は入院して点滴での治療になります。専門のお薬での治療です。
ほとんどの子どもが治りますが、早めに診断して早めに治療を済ませなければ、
心臓の周りの血管も炎症を起こすので、冠動脈瘤になるおそれもあります。

二見いすず

冠動脈瘤は、大人の病気でも聞きますよね。

櫛木大祐Dr.

そうですね。心筋梗塞や狭心症を引き起こす原因として知られています。

二見いすず

早めの診断と治療が大切ということですが、具体的にはどのくらいでしょうか？

櫛木大祐Dr.

2週間以内に治療していただきたいです。
発熱、充血、発疹などいつもと違うなと感じたら、早めに受診してください。

二見いすず

川崎病の後遺症などはあるのですか？

櫛木大祐Dr.

基本的には冠動脈瘤以外の後遺症はほとんどありません。
急性期にしっかりと治療して、その時点で冠動脈瘤がなければ
ほぼ心配ありません。
ただし非常に稀にですが、何週間、何ヶ月と経ってから
冠動脈瘤になるケースもありますので
川崎病になったら一応5年間は定期的に検診を受けていただいています。

二見いすず

よくわかりました。今月は小児疾患についてお送りしています。
お話は鹿児島県医師会 櫛木大祐ドクターでした。
櫛木さん、ありがとうございました。

櫛木大祐Dr.

ありがとうございました。